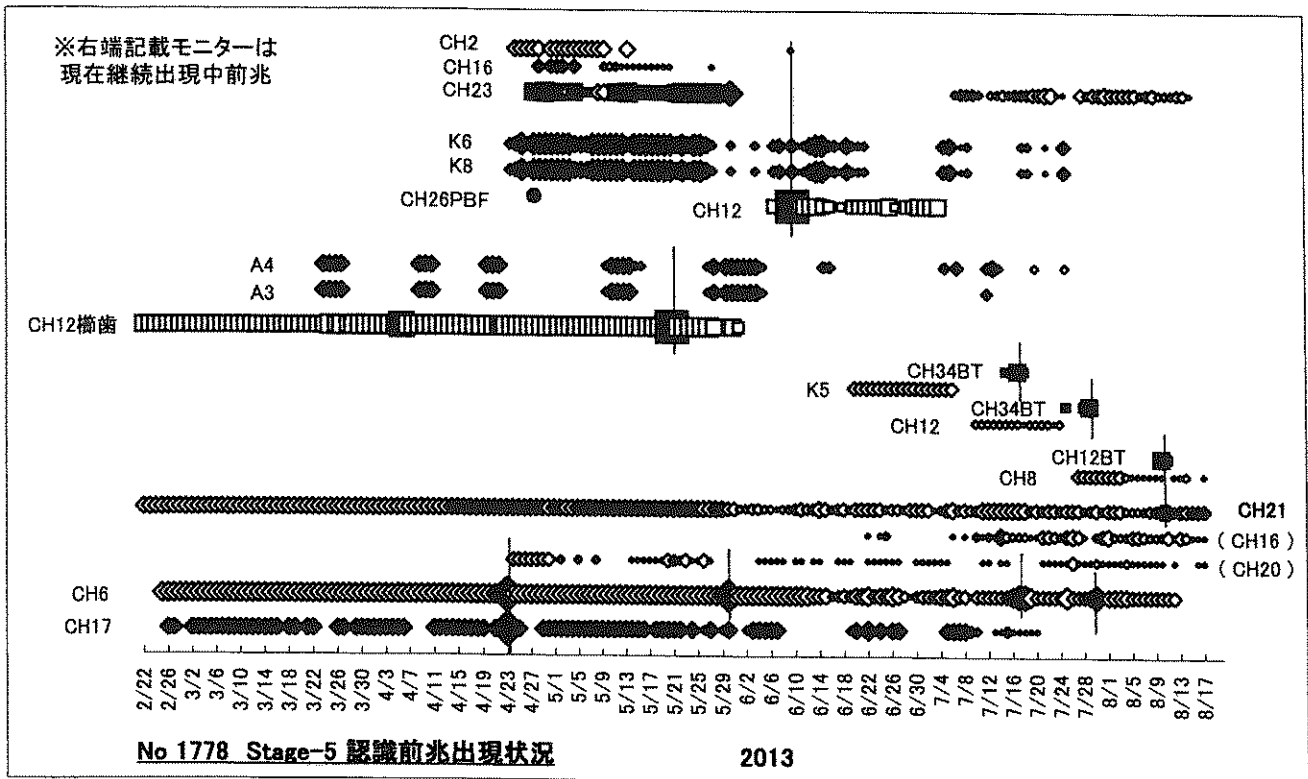


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆続報 CH23も終息
現在=CH21継続 CH16・20=微弱断続的のみにまで静穏化



No.1778=2008年7月初旬より観測歴上最長に前兆が継続する前兆で、前兆極大が多数出現、さらに現在までに5つのグループに分れる前兆群が出現する、経験のない極めて特殊な前兆形態を示す地震前兆。

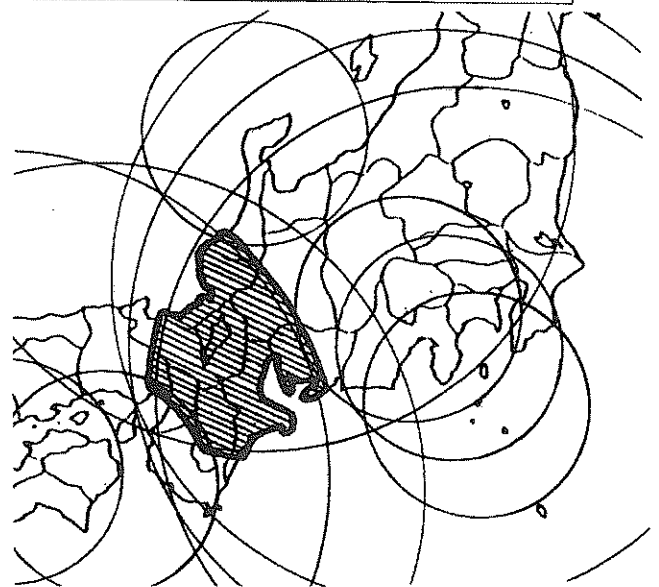
現況報告です。現在のグループ5前兆群の解析から、上図の上段前兆群の極大(CH12-6/10)に対し、CH23, CH16, CH20等が8/14±に静穏化前兆終息となる可能性が示唆されていました。

CH23は上図のとおり、8/15に静穏化しましたが、CH20は本当に微弱に、CH16は断続的に特異前兆が継続しています。

CH06は8月末近くまで前兆継続が考えられましたが、No.2403観測情報に波形を掲載したとおり、8/12夜に特異前兆が終息し、静穏化。8/17夕刻現在も静穏通常基線を記録しており、予測に反して早い時期に完全終息した模様です。

現在は、CH21がまた長い時間系状態となる特異状態を記録しているのが主で、微弱にCH20、弱く断続的にCH16に特異状態が認められるまでにNo.1778前兆は静穏化しています。CH21は8/10の極大に対しても反応しているため、仮に9/6±発生が正しい場合には、今月8月末まで特異状態が継続する可能性が示唆されます。CH08もまだ断続的に月末まで前兆出現の可能性有。CH16, 20に関しては不明ですが、同様に今月下旬まで継続して終息する可能性は否定できません。

最大20以上の観測装置に前兆が出現し、5年以上継続してきた前兆が、現在ここまで静穏化しております。09月に入っても前兆が完全終息しない場合は、第6グループへ移行する可能性となりますが、今月末に前兆終息の場合は右記の推定となります。続報にご注意を。



- 推定地震種: 浅い地殻地震
- 推定領域: 上図太線内斜線域
- 推定規模: M7.9±0.5
- 推定時期: ①早い場合=9月6日±1 (8月末前兆終息の場合)
②8月末前兆継続の場合は今後検討推定
- 推定発生時刻: 午前9時±2 又は 午後6時±2

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
 Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1996

No.1778前兆 5年以上継続の前兆出現簡易全体図と第5ステージ前兆

